

業況DIは持ち直し傾向続く

《総合の業況DIは昨年4-6月期にリーマンショックを超える大幅な落ち込み、
令和2年10-12月期以降は回復の兆し続くも、先行きは不透明》

～令和3年1-3月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和3年1-3月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇要 旨

1. 総合の業況DIは、前期比3.7ポイント上昇の▲50.6となりました。
令和2年4-6月期は総合で前期比26.7ポイント低下の▲62.1となり、リーマンショック後（平成21年1-3月期）の低下幅（12.4ポイント）を大きく超える落ち込みとなりました。7-9月期は前期比0.5ポイント低下の▲62.6とさらに悪化した後、10-12月期には同8.3ポイント上昇の▲54.3、令和3年1-3月期は同3.7ポイント上昇の▲50.6と回復の兆しを見せています。
経営状況では、売上DIは前期比10.8ポイント低下の▲45.9、また、採算DIは同7.6ポイント低下の▲43.3となりました。
2. 業種別の業況DIでは、製造業は前期比13.0ポイント上昇の▲48.4となりました。建設業の業況DIは、前期比8.3ポイント上昇の▲14.3となりました。
商業・サービス業の業況DIは、前期比2.9ポイント低下の▲60.3となり、緊急事態宣言の延長による影響を受ける飲食店は同28.9ポイント低下の▲96.1と悪化しています。
3. 今後の総合の業況DIを見ると、3か月後は現在比5.2ポイント低下の▲55.8、半年後は同2.7ポイント低下の▲53.3を見込んでおり、依然として先行き不透明感が表れています。
4. 企業からは、例えば「感染症防止を徹底し、通常営業をしています。当社は、社会インフラシステムに関係する仕事を受注しておりますので、安定した受注をしています。コロナ禍での生産が稼働し始めたことで他社も動きが活発になってきているのを感じます」、「コロナの影響で、卸部門が飲食店の売上減に比例。小売部門は、売上増加だが、今後の見通しが不明」、「国内変わらず。輸出不調。今後半年は、コロナ後に回復の見通し」、「緊急事態宣言で、20:00迄の営業ですので、どうしても客数・売上が落ちています。緊急事態宣言が解除され、コロナが落ち着けばまた良くなっていくと思います」など、コロナ後に期待する声も聞かれます。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

事業部経営総合相談課 小菅

TEL 045-633-5201 FAX 045-633-5194

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: soudan@kipc.or.jp

令和3年1-3月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは3.7ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和3年1-3月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和3年2月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,051社（52.6%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	365	66.4%
建設業	250	126	50.4%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	560	46.7%
合計	2,000	1,051	52.6%

2. 調査結果

（1）総合

	令和2年			令和3年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲62.1	▲62.6	▲54.3	▲50.6	▲55.8	▲53.3
売上DI	▲66.7	▲48.5	▲35.1	▲45.9	—	—
採算DI	▲58.4	▲45.8	▲35.7	▲43.3	—	—

総合の業況DIは、前期比3.7ポイント上昇の▲50.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比10.8ポイント低下の▲45.9、また、採算DIは同7.6ポイント低下の▲43.3となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比5.2ポイント低下の▲55.8、半年後は同2.7ポイント低下の▲53.3を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和2年			令和3年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲64.0	▲74.4	▲61.4	▲48.4	▲49.6	▲43.2
売上DI	▲74.9	▲65.2	▲30.2	▲32.2	—	—
採算DI	▲64.0	▲62.2	▲32.5	▲33.5	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比13.0ポイント上昇の▲48.4となった。

経営状況では、売上DIは、前期比2.0ポイント低下の▲32.2、採算DIは同1.0ポイント低下の▲33.5となった。

「新型コロナウイルス感染症防止を徹底し、通常営業をしています。当社は、社会インフラシステムに関係する仕事を受注しておりますので、安定した受注をしています。コロナ禍での生産が稼働し始めたことで他社も動きが活発になってきているのを感じます。」「製造加工業は、以前より持ち直しているとはいえ、コロナの影響が見通せません。半年後も現状と同じにしましたが、終息の有無により上昇・下降に振れる可能性があります。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.2ポイント低下の▲49.6、半年後は同5.2ポイント上昇の▲43.2を見込んでおり、「既存客の発注量は減少（特にメイン以外の小口先は大幅に減少）。新規案件はあるものの、コロナの影響により立ち上げ時期が3か月～6か月遅れ。6か月～1年後は、回復してくる見込みは持っているが、更なる遅れが懸念されます。」「国内変わらず。輸出不調。今後半年は、コロナ後に回復の見通し。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和2年			令和3年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
一般機械	▲63.0	▲80.7	▲67.4	▲46.7	▲42.2	▲38.2
電気機械	▲53.2	▲69.9	▲52.4	▲44.7	▲46.4	▲36.1
輸送用機械	▲83.3	▲74.1	▲61.7	▲52.5	▲54.2	▲51.7
その他	▲62.3	▲73.5	▲62.8	▲50.0	▲54.8	▲47.5

中分類で見ると、一般機械は前期比20.7ポイント上昇の▲46.7、電気機械は同7.7ポイント上昇の▲44.7、輸送用機械は同9.2ポイント上昇の▲52.5となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比4.5ポイント上昇の▲42.2、電気機械が同1.7ポイント低下の▲46.4、輸送用機械は同1.7ポイント低下の▲54.2、半年後は一般機械が同8.5ポイント上昇の▲38.2、電気機械が同8.6ポイント上昇の▲36.1、輸送用機械は同0.8ポイント上昇の▲51.7を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和2年			令和3年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲25.6	▲24.4	▲22.6	▲14.3	▲44.3	▲52.0
売上DI	▲52.1	▲28.2	▲14.4	▲19.8	—	—
採算DI	▲43.0	▲22.3	▲24.8	▲24.2	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比8.3ポイント上昇の▲14.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比5.4ポイント低下の▲19.8、採算DIは同0.6ポイント上昇の▲24.2となった。

「昨年の4～6月期は、官庁の入札が順調であったので、10月～12月期は良好でした。しかし、1月で全て完成です。民間は少なく、今後が心配。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比30.0ポイント低下の▲44.3、半年後は同37.7ポイント低下の▲52.0を見込んでおり、「昨年に比べて、3～4割売上が減っている。これから先も公共事業の受注が減り、厳しくなりそう。」「コロナ禍での民需減退。税収減により公共工事減少が想定され、今後の見通しは厳しめに見ている。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和2年			令和3年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲68.7	▲64.2	▲57.4	▲60.3	▲62.5	▲60.1
売上DI	▲64.5	▲42.3	▲43.4	▲60.7	—	—
採算DI	▲58.1	▲40.7	▲40.6	▲53.9	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比2.9ポイント低下の▲60.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比17.3ポイント低下の▲60.7、採算DIは同13.3ポイント低下の▲53.9となった。「1～3月は官公庁需要があるため、前期10～12月と比べ売上・利益とも上がりますが、レジャー需要は半年後、1年後の見通しを立てるのが難しい状況です。」

「いわゆるコロナ需要的な突発的な動きもありますが、見込んでいたインフラ関連の単価が崩れてしまい、取り切れていません。自動車も止まり、先行き不安です。」「コロナの影響で、卸部門が飲食店の売上減に比例。小売部門は、売上増加だが、今後の見通しが不明。」

「コロナ禍の影響で、客足が悪く夜など全く入らない。時短営業をしているが、人件費はこれ以上削れない。パートさんにも生活があるので守ってあげるのも会社の使命だと考える。ワークシェア一人あたり週3日出勤。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.2ポイント低下の▲62.5、半年後は同0.2ポイント上昇の▲60.1を見込んでいる。「3か月後、半年後はコロナのワクチンおよび、薬の開発が進めば、更に売上、（採算）共に良くなる可能性があります。」「緊急事態宣言で、20:00迄の営業ですので、どうしても客数・売上が落ちています。緊急事態宣言が解除され、コロナが落ち着けばまた良くなっていくと思います。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和2年			令和3年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
卸売業	▲68.5	▲66.7	▲64.4	▲57.0	▲65.3	▲62.6
小売業	▲75.0	▲64.6	▲56.5	▲57.9	▲57.0	▲60.3
飲食店	▲97.2	▲81.1	▲67.2	▲96.1	▲89.2	▲68.5
サービス業	▲44.5	▲52.9	▲48.9	▲46.7	▲55.6	▲53.4

業種別では、卸売業は前期比7.4ポイント上昇の▲57.0、小売業は同1.4ポイント低下の▲57.9、飲食店は同28.9ポイント低下の▲96.1、サービス業は同2.2ポイント上昇の▲46.7となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比8.3ポイント低下の▲65.3、小売業は同0.9ポイント上昇の▲57.0、飲食店は同6.9ポイント上昇の▲89.2、サービス業は同8.9ポイント低下の▲55.6、半年後では卸売業が同5.6ポイント低下の▲62.6、小売業は同2.4ポイント低下の▲60.3、飲食店は同27.6ポイント上昇の▲68.5、サービス業は同6.7ポイント低下の▲53.4を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和2年			令和3年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
中規模	業況DI	▲59.0	▲59.3	▲51.7	▲48.2	▲49.4	▲48.7
	売上DI	▲62.6	▲42.5	▲30.6	▲41.2	—	—
	採算DI	▲56.5	▲40.7	▲30.2	▲40.7	—	—
小規模	業況DI	▲65.7	▲66.6	▲57.6	▲53.4	▲63.6	▲58.7
	売上DI	▲71.3	▲55.4	▲40.6	▲51.7	—	—
	採算DI	▲60.5	▲51.8	▲42.5	▲46.3	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比3.5ポイント上昇の▲48.2、小規模企業は同4.2ポイント上昇の▲53.4となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比10.6ポイント低下の▲41.2、採算DIが同10.5ポイント低下の▲40.7、小規模企業は売上DIが同11.1ポイント低下の▲51.7、採算DIが同3.8ポイント低下の▲46.3となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比1.2ポイント低下の▲49.4、半年後が同0.5ポイント低下の▲48.7、小規模企業は3か月後が同10.2ポイント低下の▲63.6、半年後が同5.3ポイント低下の▲58.7を見込んでいる。

(4) 地区別特徴 (業況DI)

	令和2年			令和3年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
横浜	▲64.6	▲63.8	▲56.1	▲52.4	▲55.7	▲52.5
川崎	▲47.1	▲55.0	▲46.6	▲40.0	▲50.0	▲47.4
横須賀	▲56.1	▲50.0	▲56.9	▲55.1	▲62.1	▲62.8
平塚	▲63.2	▲63.1	▲67.3	▲61.0	▲63.3	▲55.7
藤沢	▲64.9	▲65.3	▲42.5	▲43.8	▲56.7	▲54.8
相模原	▲58.8	▲68.3	▲64.2	▲46.4	▲52.1	▲51.6
厚木	▲67.2	▲61.1	▲41.7	▲46.9	▲50.0	▲51.3
足柄上・西湘	▲74.8	▲75.5	▲61.2	▲59.8	▲60.0	▲54.4

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比3.7ポイント上昇の▲52.4）、川崎地区（同6.6ポイント上昇の▲40.0）、横須賀地区（同1.8ポイント上昇の▲55.1）、平塚地区（同6.3ポイント上昇の▲61.0）、藤沢地区（同1.3ポイント低下の▲43.8）、相模原地区（同17.8ポイント上昇の▲46.4）、厚木地区（同5.2ポイント低下の▲46.9）、足柄上・西湘地区（同1.4ポイント上昇の▲59.8）となり6地区で上昇し、2地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比3.3ポイント低下の▲55.7）、川崎地区（同10.0ポイント低下の▲50.0）、横須賀地区（同7.0ポイント低下の▲62.1）、平塚地区（同2.3ポイント低下の▲63.3）、藤沢地区（同12.9ポイント低下の▲56.7）、相模原地区（同5.7ポイント低下の▲52.1）、厚木地区（同3.1ポイント低下の▲50.0）、足柄上・西湘地区（同0.2ポイント低下の▲60.0）となり8地区全てで低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比0.1ポイント低下の▲52.5）、川崎地区（同7.4ポイント低下の▲47.4）、横須賀地区（同7.7ポイント低下の▲62.8）、平塚地区（同5.3ポイント上昇の▲55.7）、藤沢地区（同11.0ポイント低下の▲54.8）、相模原地区（同5.2ポイント低下の▲51.6）、厚木地区（同4.4ポイント低下の▲51.3）、足柄上・西湘地区（同5.4ポイント上昇の▲54.4）となり2地区で上昇し、6地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)

(Kanagawa Industrial Promotion Center)

事業部経営総合相談課 小菅

TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和3年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		365	126	101	245	77	137	560	1,051
業況判断	現在の業況	▲48.4	▲14.3	▲57.0	▲57.9	▲96.1	▲46.7	▲60.3	▲50.6
	3ヶ月後の業況	▲49.6	▲44.3	▲65.3	▲57.0	▲89.2	▲55.6	▲62.5	▲55.8
	半年後の業況	▲43.2	▲52.0	▲62.6	▲60.3	▲68.5	▲53.4	▲60.1	▲53.3
経営状況	売上	▲32.2	▲19.8	▲55.4	▲62.0	▲92.2	▲44.5	▲60.7	▲45.9
	採算	▲33.5	▲24.2	▲50.5	▲53.5	▲79.2	▲42.5	▲53.9	▲43.3
	引き合い／客数	▲33.8	▲32.8	▲39.0	▲59.0	▲90.9	▲37.0	▲54.5	▲44.7
	単価	▲21.4	▲12.0	▲42.0	▲45.9	▲44.7	▲24.8	▲39.9	▲30.1
	仕入価格	▲36.6	▲24.8	▲28.3	▲29.6	▲18.4	▲20.3	▲25.6	▲29.4
	資金繰り	▲32.5	▲10.4	▲31.0	▲35.1	▲68.8	▲35.6	▲39.1	▲33.4
	残業	▲27.2	▲18.4	▲36.0	▲38.3	▲80.0	▲32.8	▲42.3	▲34.1
	設備稼働	▲27.8	▲19.2	—	—	—	—	—	▲25.7
前期経営実績	売上水準	▲42.7	▲21.4	▲53.0	▲42.4	▲75.3	▲32.8	▲46.5	▲42.2
	利益水準	▲23.3	▲1.6	▲22.2	▲24.5	▲61.0	▲16.8	▲27.2	▲22.8
	在庫	8.1	▲2.7	10.5	4.1	9.1	▲3.4	4.3	4.9
	投資	▲18.0	▲10.9	▲23.2	▲19.4	▲31.2	▲13.8	▲20.5	▲18.5
	雇用状況	3.3	▲35.5	2.1	▲5.8	8.0	▲17.3	▲5.3	▲5.9

参考＜前回調査＞ 景気動向調査

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		362	133	104	238	67	137	546	1,041
業況判断	現在の業況	▲61.4	▲22.6	▲64.4	▲56.5	▲67.2	▲48.9	▲57.4	▲54.3
	3ヶ月後の業況	▲60.2	▲29.5	▲73.3	▲59.7	▲68.8	▲51.9	▲61.4	▲56.8
	半年後の業況	▲52.6	▲43.9	▲63.6	▲60.4	▲68.3	▲48.9	▲59.0	▲54.8
経営状況	売上	▲30.2	▲14.4	▲47.1	▲46.6	▲40.3	▲36.5	▲43.4	▲35.1
	採算	▲32.5	▲24.8	▲46.6	▲40.8	▲35.8	▲38.0	▲40.6	▲35.7
	引き合い／客数	▲25.9	▲28.6	▲34.0	▲43.2	▲41.8	▲25.5	▲36.8	▲32.0
	単価	▲17.5	▲13.5	▲31.4	▲32.8	▲19.4	▲13.9	▲26.1	▲21.5
	仕入価格	▲20.1	▲20.5	▲26.9	▲34.6	▲32.8	▲22.5	▲30.0	▲25.3
	資金繰り	▲35.9	▲5.3	▲40.4	▲30.7	▲31.3	▲26.5	▲31.6	▲29.7
	残業	▲34.9	▲25.6	▲24.5	▲32.3	▲44.6	▲33.6	▲32.6	▲32.5
	設備稼働	▲31.4	▲16.7	—	—	—	—	—	▲27.6
前期経営実績	売上水準	▲57.7	▲24.1	▲62.1	▲55.0	▲70.1	▲43.8	▲55.4	▲52.2
	利益水準	▲38.1	▲1.5	▲30.8	▲37.8	▲56.7	▲28.5	▲36.4	▲32.6
	在庫	14.5	1.6	16.7	3.8	0.0	▲4.1	4.0	7.4
	投資	▲20.7	▲10.0	▲14.9	▲16.3	▲33.3	▲8.7	▲16.3	▲17.1
	雇用状況	11.1	▲31.6	▲2.0	▲3.0	1.5	▲6.1	▲3.0	▲1.8

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		195	170	64	62	314	246	573	478
業況判断	現在の業況	▲43.6	▲53.8	▲17.2	▲11.3	▲57.6	▲63.7	▲48.2	▲53.4
	3ヶ月後の業況	▲37.7	▲63.3	▲42.9	▲45.8	▲58.0	▲68.2	▲49.4	▲63.6
	半年後の業況	▲34.7	▲53.1	▲54.0	▲50.0	▲56.4	▲64.7	▲48.7	▲58.7
経営状況	売上	▲24.1	▲41.7	▲10.9	▲29.0	▲58.0	▲64.2	▲41.2	▲51.7
	採算	▲30.3	▲37.3	▲22.2	▲26.2	▲51.0	▲57.6	▲40.7	▲46.3
	引き合い／客数	▲27.7	▲40.8	▲27.0	▲38.7	▲51.0	▲59.0	▲40.4	▲49.9
	単価	▲19.5	▲23.7	▲19.0	▲4.8	▲33.5	▲48.1	▲27.1	▲33.7
	仕入価格	▲36.9	▲36.3	▲19.0	▲30.6	▲23.5	▲28.5	▲27.6	▲31.6
	資金繰り	▲23.7	▲42.6	▲12.7	▲8.1	▲33.3	▲46.5	▲27.8	▲40.1
	残業	▲18.0	▲37.6	▲22.2	▲14.5	▲43.2	▲41.0	▲32.3	▲36.3
	設備稼働	▲18.6	▲38.5	▲17.5	▲21.1	—	—	▲18.3	▲34.1
前期経営実績	売上水準	▲36.6	▲49.7	▲28.1	▲14.5	▲43.8	▲50.0	▲39.6	▲45.3
	利益水準	▲12.8	▲35.3	0.0	▲3.2	▲23.4	▲32.1	▲17.2	▲29.5
	在庫	13.6	1.8	0.0	▲5.5	5.4	3.0	7.7	1.5
	投資	▲20.1	▲15.5	▲14.8	▲6.9	▲17.1	▲24.8	▲17.9	▲19.2
	雇用状況	5.6	0.6	▲34.4	▲36.7	▲4.9	▲5.9	▲4.6	▲7.5

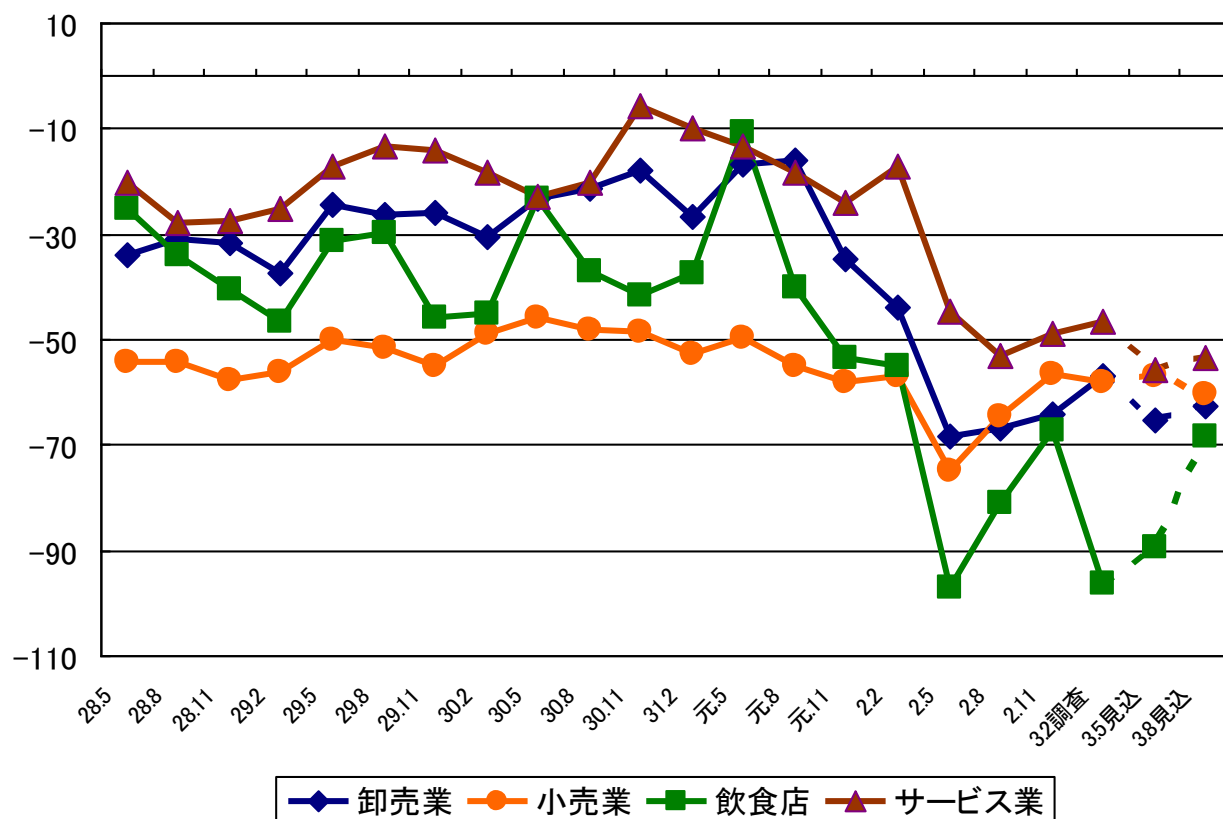
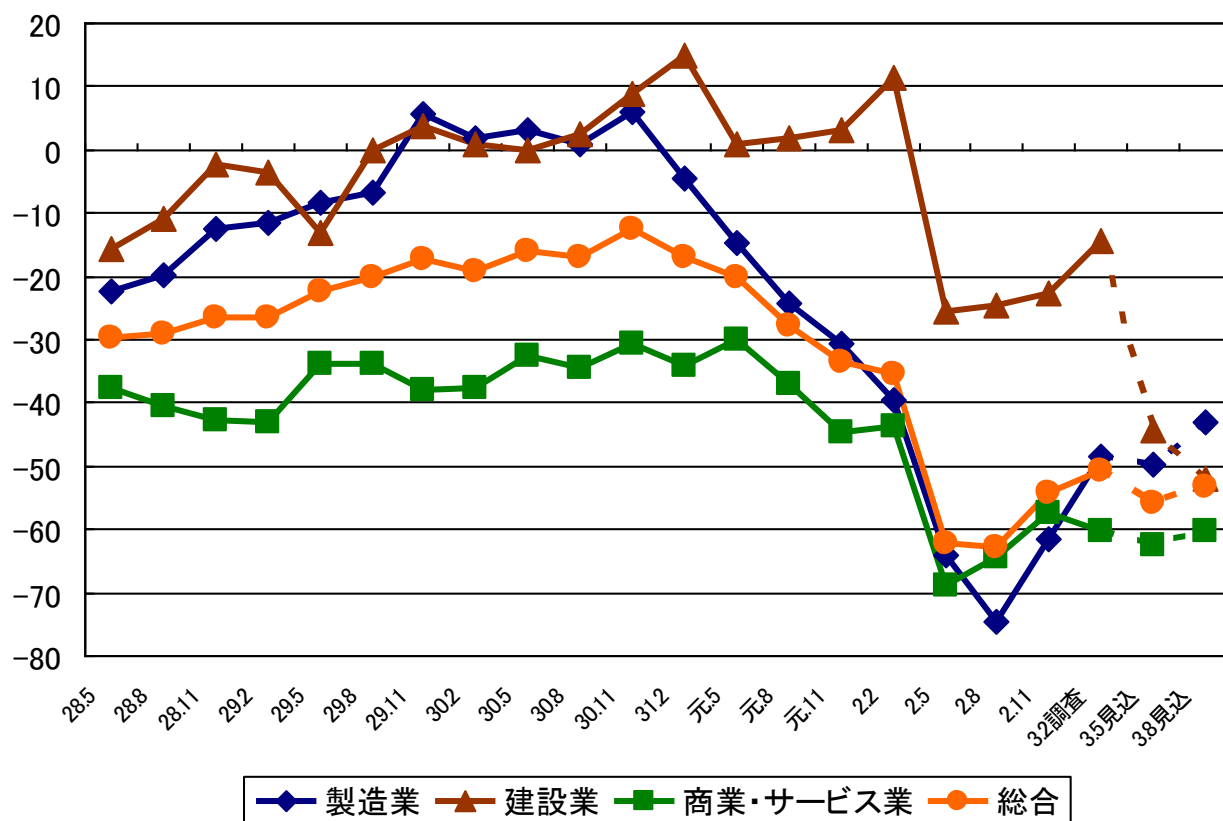
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		286	141	98	100	106	98	114	108	1,051
業況判断	現在の業況	▲52.4	▲40.0	▲55.1	▲61.0	▲43.8	▲46.4	▲46.9	▲59.8	▲50.6
	3ヶ月後の業況	▲55.7	▲50.0	▲62.1	▲63.3	▲56.7	▲52.1	▲50.0	▲60.0	▲55.8
	半年後の業況	▲52.5	▲47.4	▲62.8	▲55.7	▲54.8	▲51.6	▲51.3	▲54.4	▲53.3
経営状況	売上	▲46.0	▲41.8	▲50.5	▲58.0	▲42.5	▲51.0	▲31.6	▲50.0	▲45.9
	採算	▲46.6	▲40.7	▲45.4	▲54.0	▲45.3	▲39.2	▲27.2	▲44.4	▲43.3
	引き合い／客数	▲45.6	▲45.0	▲45.4	▲50.0	▲48.1	▲48.5	▲30.7	▲44.4	▲44.7
	単価	▲34.4	▲26.4	▲31.3	▲35.4	▲30.8	▲26.8	▲20.2	▲30.6	▲30.1
	仕入価格	▲35.0	▲29.8	▲24.0	▲32.3	▲31.4	▲28.1	▲24.8	▲20.6	▲29.4
	資金繰り	▲31.1	▲27.7	▲38.1	▲39.4	▲38.7	▲29.9	▲27.2	▲41.7	▲33.4
	残業	▲36.4	▲34.8	▲37.5	▲33.7	▲30.5	▲34.7	▲26.8	▲35.2	▲34.1
	設備稼働	▲26.2	▲25.4	▲22.5	▲17.8	▲31.8	▲35.3	▲13.3	▲35.7	▲25.7
前期経営実績	売上水準	▲44.7	▲44.3	▲43.9	▲40.0	▲39.6	▲38.8	▲38.6	▲42.6	▲42.2
	利益水準	▲23.2	▲24.8	▲19.4	▲26.3	▲25.5	▲22.4	▲14.9	▲25.0	▲22.8
	在庫	7.7	1.5	1.1	4.1	▲3.0	12.4	2.7	9.7	4.9
	投資	▲16.0	▲14.6	▲16.8	▲13.4	▲30.5	▲21.9	▲19.5	▲19.6	▲18.5
	雇用状況	▲2.5	▲13.5	▲9.6	▲6.2	▲8.6	▲2.1	▲2.6	▲5.6	▲5.9

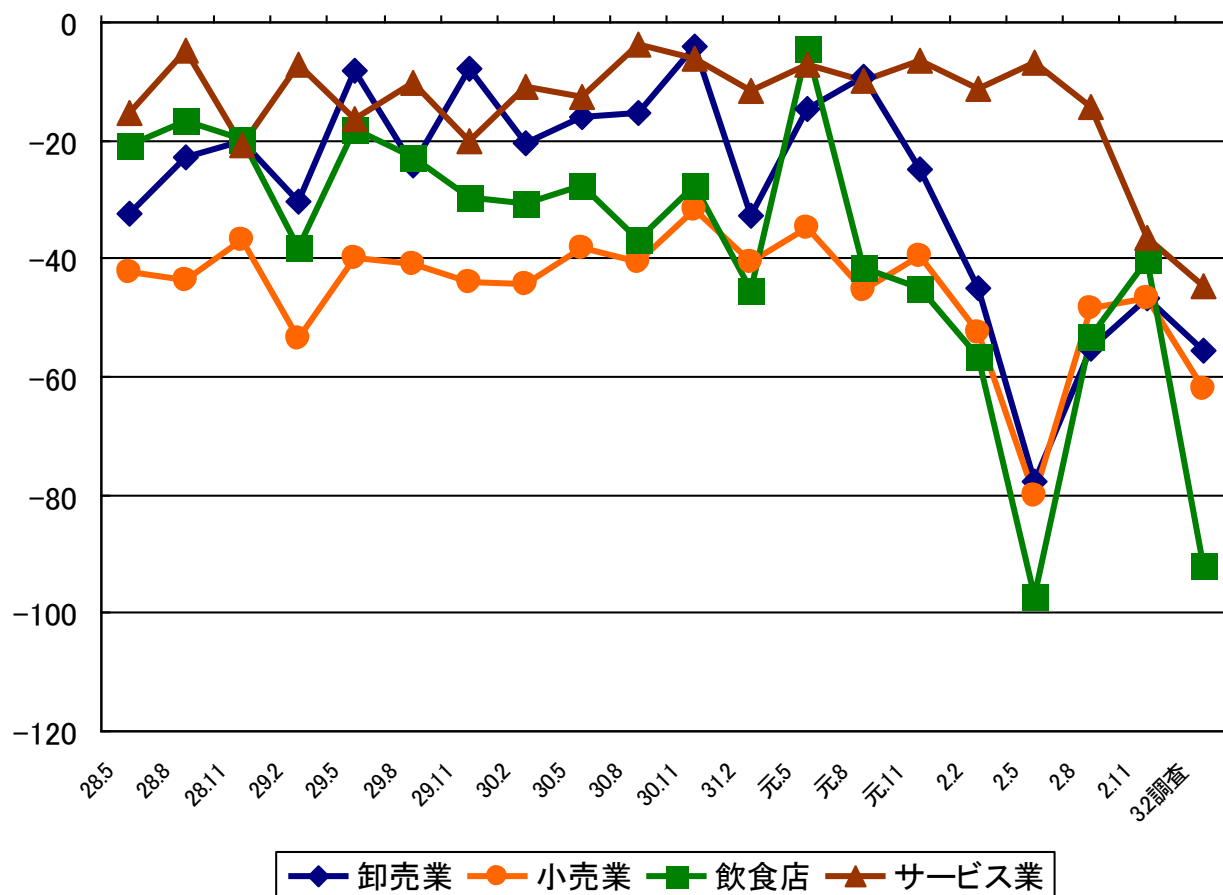
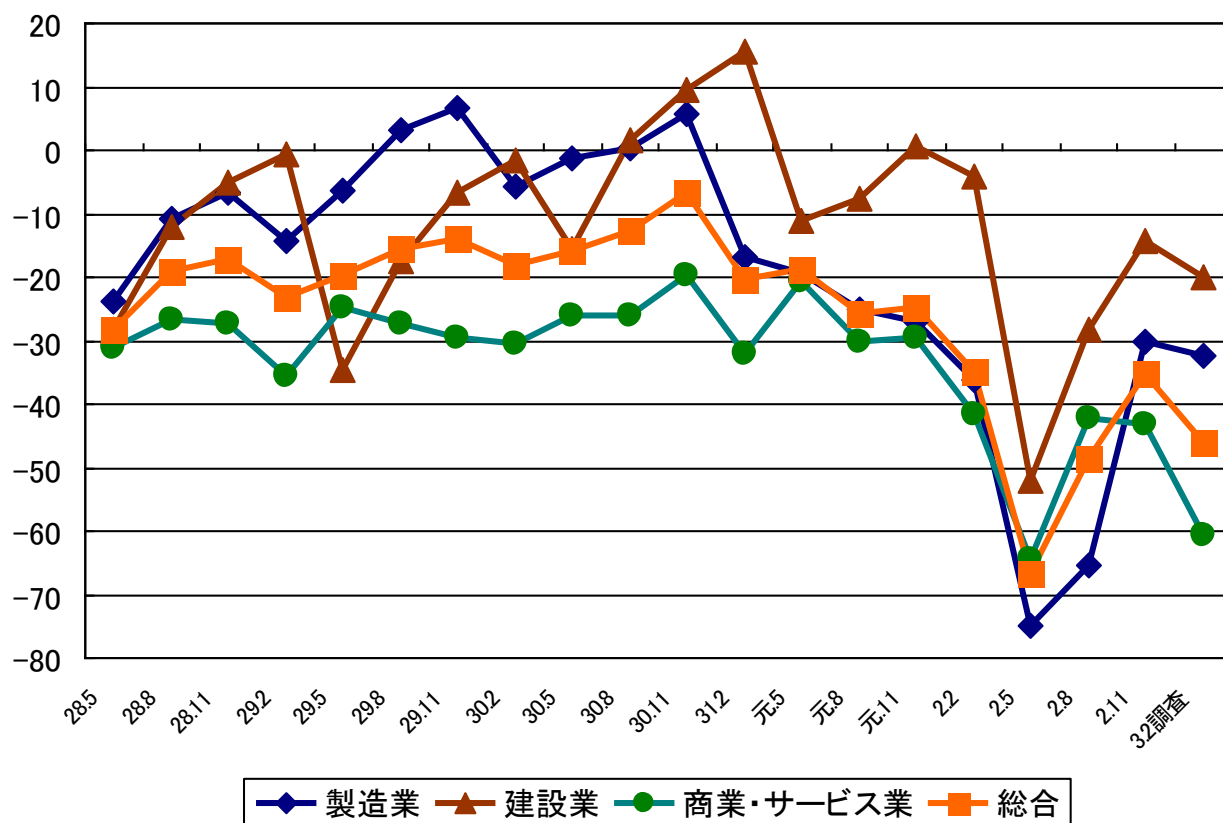
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		90	85	60	130	365
業況判断	現在の業況	▲46.7	▲44.7	▲52.5	▲50.0	▲48.4
	3ヶ月後の業況	▲42.2	▲46.4	▲54.2	▲54.8	▲49.6
	半年後の業況	▲38.2	▲36.1	▲51.7	▲47.5	▲43.2
経営状況	売上	▲27.8	▲30.6	▲30.5	▲37.2	▲32.2
	採算	▲32.2	▲25.9	▲33.3	▲39.5	▲33.5
	引き合い／客数	▲35.6	▲30.6	▲30.0	▲36.4	▲33.8
	単価	▲20.0	▲17.6	▲25.0	▲23.3	▲21.4
	仕入価格	▲28.9	▲41.2	▲39.0	▲38.0	▲36.6
	資金繰り	▲28.9	▲27.1	▲35.6	▲37.2	▲32.5
	残業	▲27.8	▲23.8	▲20.0	▲32.3	▲27.2
	設備稼働	▲22.5	▲29.4	▲23.3	▲32.6	▲27.8
前期経営実績	売上水準	▲47.8	▲40.0	▲52.5	▲36.4	▲42.7
	利益水準	▲33.3	▲16.5	▲33.3	▲16.2	▲23.3
	在庫	▲3.5	12.9	8.6	12.5	8.1
	投資	▲22.5	▲19.0	▲10.0	▲17.8	▲18.0
	雇用状況	▲1.1	9.4	5.0	1.5	3.3

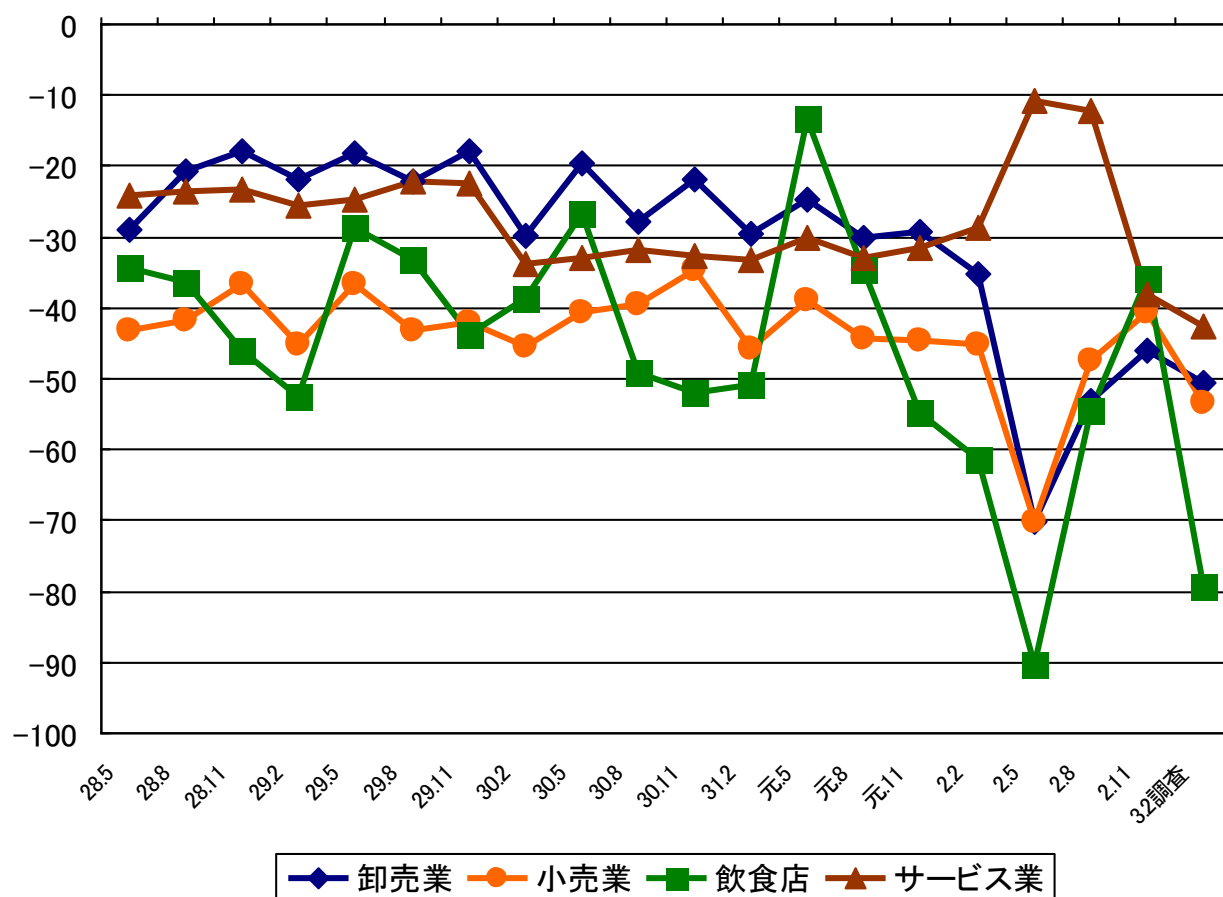
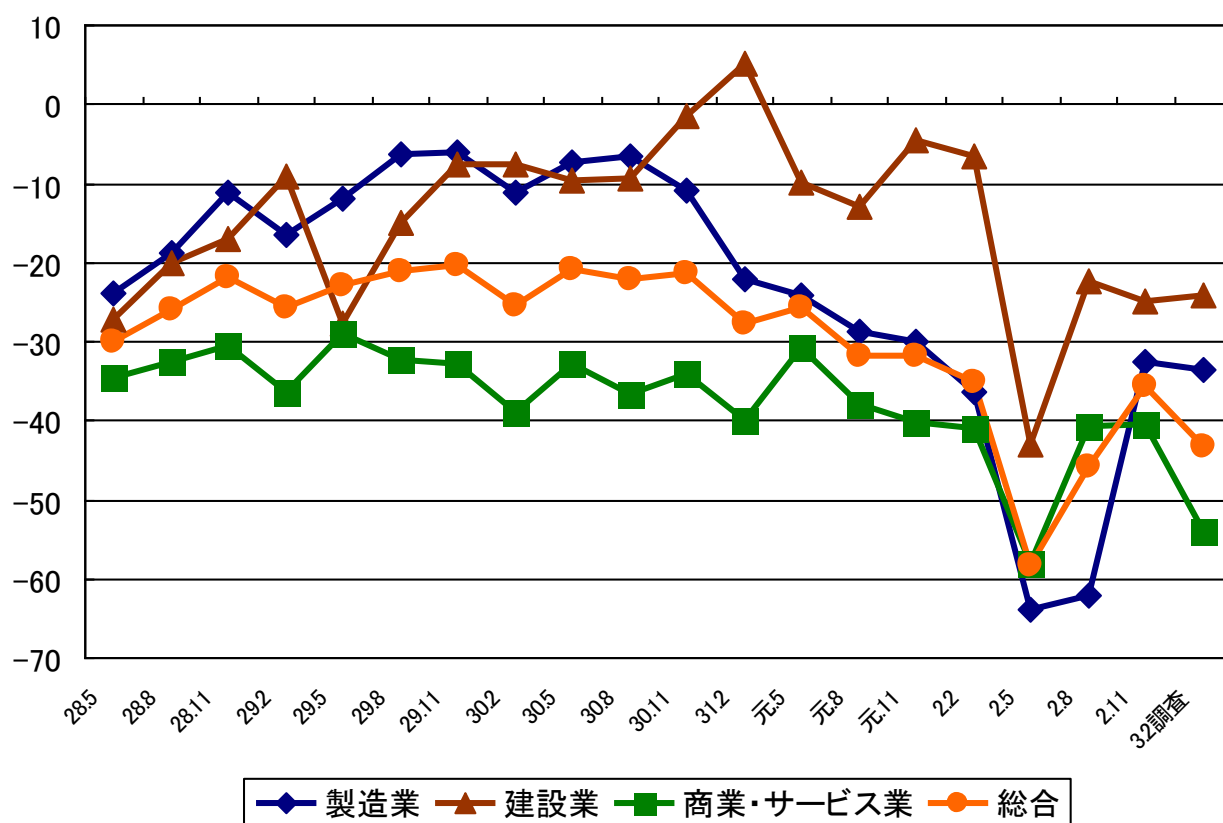
業況DIの推移



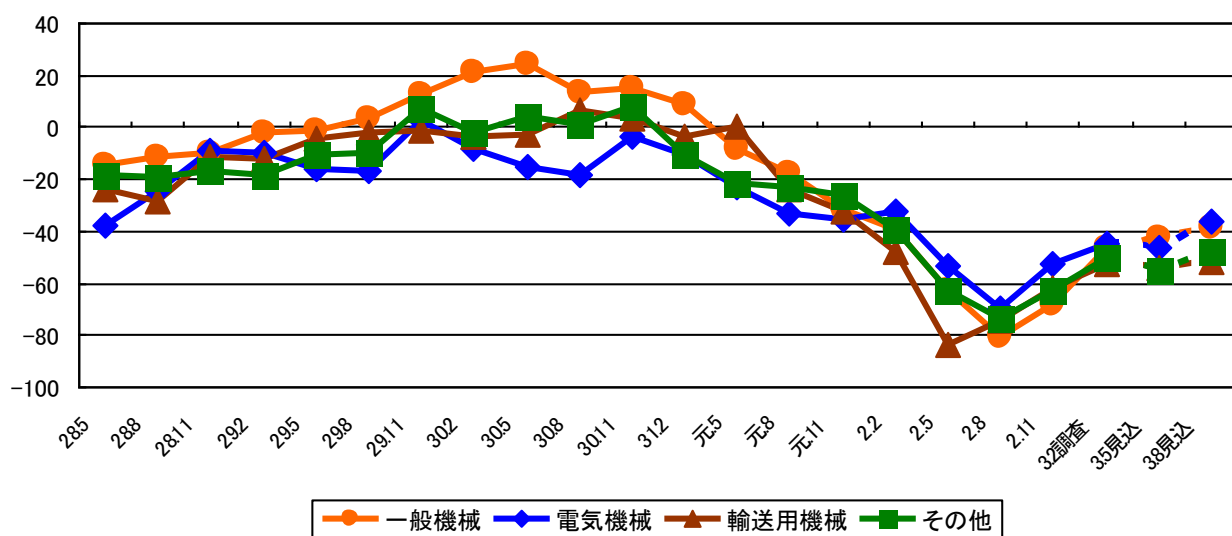
売上DIの推移



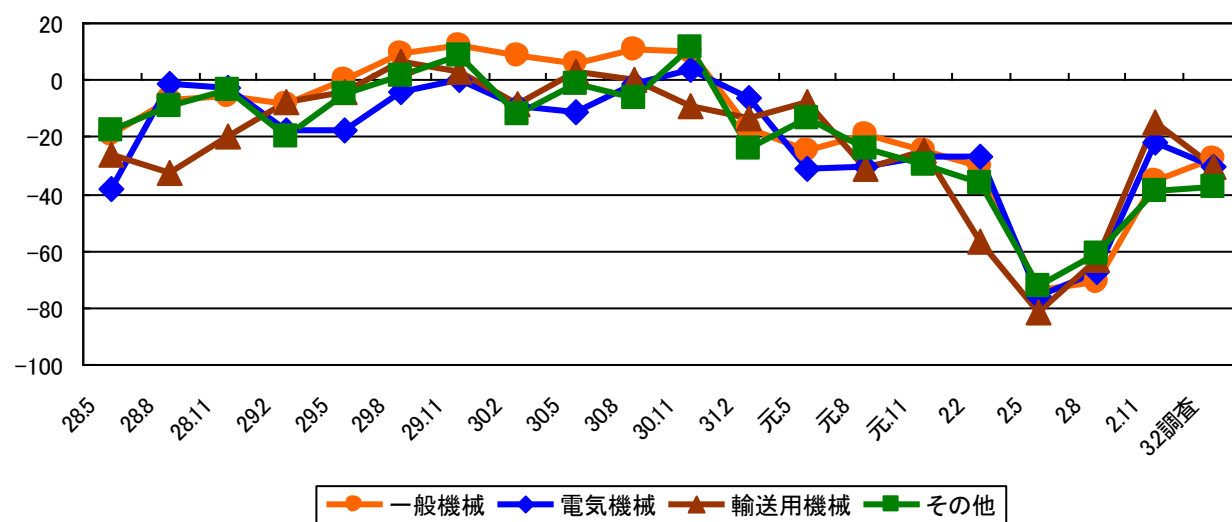
採算DIの推移



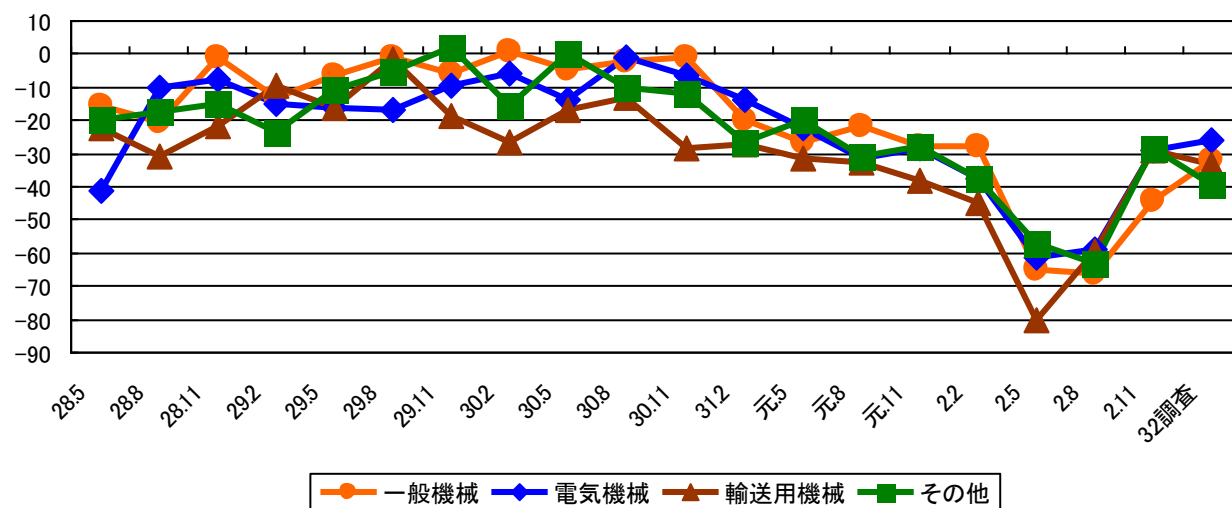
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

「中国建機向けの部品が好調で、売上を押し上げている。」
「年始に改善の兆しがありましたが、第2回目の緊急事態宣言により悪化しました。テレワークや休業も対応中ですが、客先の納期に変更がないため、不十分な対応ができていません。」
「3月からの見通しが立たない。横ばいで推移するのかまたは、極端に落ち込むのか、航空機材関係は昨年4月に発注があり、それ以降は”ゼロ”。」
「令和3年1月より、一気に受注が増え、前期の損失を全て解消できる見込み。但し、一過性のモノかまだ判断がつかないので油断は禁物。」
「半導体関連のワイヤーハーネス生産が好調であるが、半年後は、若干下がるだろうとの見通しもある。同じように、事務機関連のワイヤー、ハーネスも好調であったが、リモート環境も一段落した感があり、後半は少し下がると見ている。」
「5G関連のレーザ通信が伸びている。今後も拡大していくと思われる。」
「自動車関係向け半導体の鋼材の流通不足により、減産が生じている。需要と供給のバランスが崩れており、海外輸出向けにダメージが生じる可能性あり。」
「例年1～3月期は、受注の落ち込みはあるものの、ほぼ予想通りになっているが、令和3年度は、業界市場の見通しが厳しく、一段と立てにくくなってきている。また、人手不足も思うような人材が集まらず、解消できていない。」
「コロナに大きく左右されるので、急激な回復は見込めない。特に飲食関係の取引先からの引き合いは、とても厳しい状況にある。」
「アメリカ、中国向け自動車部品用金型の引き合いは増えているが、今後のコロナの状況次第で大きく影響を受けそう。」
「現在の受注は増えているが、今後の発注がどのくらいかは未定、少し不安はある。」
「コロナ禍における消耗品の需要減少。大学研究室の稼働減による需要減少が影響していると思います。今年の夏以降は、半導体関係が増え、受注が増えてくることに期待しています。」
「コロナ禍により、先が見えないのが心配です。緊急事態宣言によって、歯車が止まった感じです。一日も早くコロナの終息を願っています。」
「新型コロナウイルスおよび、半導体不足により生産台数が減産されているため、業績不振となっている。今後についても半導体不足の解消および、新型コロナウイルスの終息が業績好転を左右するものと思われる。」
「コロナの影響もあり、引き続き受注が少ない状態が続いています。コロナに感染した社員や、家族が感染した社員の休業費用、4月より派遣社員の時給を法令に従って上げなければいけないことなどもあり、厳しい状況が続きます。」

<建設業>

「コロナ終息の状況が不明で、経営の見通しが読めない。一日も早い終息を望む。」
「建設業の仕事が、40～50%減になっております。非常に仕事が無く、厳しいです。」
「コロナが落ち着いて、動き出した感。今後、税收落ちとコロナに流れた公共投資用資金が心配。」
「ホテルの増改築、内装はリ替えが激減。」
「民間工事量の減少。特に大型物件の延期。」
「長期案件はあるが、短期案件がない。」
「コロナの影響で、官公庁の発注の件数が減少する可能性があり、また、民間工事についてもコロナで受注が減少するようだ。経営状況は厳しい見込みである。」
「年の初めの入札にて1年間の売上が決まるので、毎年同じとはならない。他業種を増やせば、設備・人等が必要になるので、何とも言えない。」
「市公共工事、競争激化。」

<卸売業>

「コロナの影響で経済が悪化。当然設備投資をする会社が減っている。よって今後の見通しは不透明。」
「非金属製品は、少しずつ良くなっている。(価格も材料単価アップ。)照明関連は、良くなることはないと思います。(LED化。)」
「緊急事態宣言の再度の発出、延長により、お客さまも右往左往している様子。輸入を伴う仕入は、生産、輸送ともに滞りがみられる。」
「例年10月～1月の間は、1年の中で一番の繁忙期なのですが、コロナの件もありいつもの出荷物(商品)が半減するという事態により、不調の一年でした。令和3年度は、少しでも景気が戻ってくればと思います。」
「半導体は動いています。造船その他は不調で、先が見えないです。」
「業界自体の縮小で、規模の大きな工場から廃業が始まっている。」
「緊急事態宣言の再発令で、売上が減少している。今後もこの状態が続くと、半年位は売上の減少が続く見込みです。」
「コロナの影響で、自動車・鉄鋼関係の客先の売上が落ちたが、若干回復している。製鉄所(JFEスチール)の閉鎖が決まっており、先行き不安。」
「PCR 検査装置部品、5G関連、半導体装置関連の受注が増えた。」

<小売業>

「緊急事態宣言により人出の減少、それに伴い、客数も減少している。仕入先の在庫状況も悪くなっているように感じる。」
「コロナ禍で、お客さまのほとんどが動きが無い。業務店の休業・縮小でほとんど品物が動かない状態です。」
「成人式、大学卒業式の中止・縮小により、また来年も不透明のため、振袖レンタル、卒業袴のレンタルの動きが鈍い。」
「去年の後半には、悪いながらも少し安定してきていたのに、今回の緊急事態宣言の発令後、パタッと人が来なくなり、売上は全く無いと言っていい状態。飲食店だけでなく、小売店も何とかして下さい。」
「地元以外の客が減っている。コロナ対策で、イートインスペースが無くなり、テイクアウト商品以外が主力なので、売り上げはかなり厳しい。」
「洋品業界は、気候により売り上げが大きく左右される。これからの気候が季節通りに推移するのかわかりませんが、業況は大きく変化する。」
「コロナ禍による巣ごもり需要で、ペット・園芸の売上は伸びている。」
「観光関連は、1月から客数の激減、イベントの中止等、様々な要因があり大変苦しいのが現状。コロナ禍の中、営業時間の短縮や雇用調整も行っているが、取引先も苦しく、商品の製造も減産している。10月～12月は、GoToの関係もあり、前年と変わらなかった。」
「コロナで外出しないせいか、各家庭のガス使用量が例年より多い気がします。」
「海外からの仕入価格が上がっているため、今後、利益率の維持が課題。」
「酒販売店では、時短営業（飲食店で）でかなり影響されやすく、今後も見通しがつきにくく、飲食店の倒産が増えると思う。」
「新型コロナウイルスの対策関連の注文が少なくなり、今後は、注文が減少すると思われる。」

<飲食店>

「GoToトラベル中止、外出禁止令により、お客さまが箱根にこなくなり、1月中旬から店を休業しています。先が読めない状況です。」
「コロナの影響で、80%減（売上）。令和3年1月12日よりの自粛要請で売上は0円になりました。国のさらなる支援金をお願いしたい。」
「1月は時短で厳しい。ただ協力金が救いだ。コロナもワクチン投与で終息を願っている。」
「飲食店は特に不調です。外食に対する不安、多人数での会食等、風当たりが強く、非常に厳しい状況にあります。」
「GoToトラベルで宿泊客が伸びたが、飲食客が壊滅的でした。」
「飲食業なので時短営業協力金を頂けるので大変有難いですが、他業種の方々には申し訳なく思っています。」
「コロナ禍の長期化によって、複数の飲食店舗を年央までに、順次廃業していく予定。」
「ワクチンの開発、接種時期で客数が変動すると予想。緊急事態宣言解除後も財布は緩まない(一時的に売れるだけ)。」

<サービス業>

「人に会う事がなくなり、オシャレをする事がなくなったので、来店が減少した。」
「昨年から続くコロナ不況の影響で、車両販売も低調です。ユーザーの来店は少なく、店舗に長時間滞留せず。用事が済むと即帰られます。車で遠出をする事が制限されているため、メンテナンス料金も少額になっています。」
「新たな企画が功を奏し、客単価は確実に上がっている。しかし、顧客の絶対数が増えないと、収支のバランスを大きく戻す事は難しい。低コストで有効な広告宣伝ができるか、既存客のクチコミ（紹介）と、SNSの活用が重要と考える。」
「コロナによるテレワーク、外出自粛による需要の低下以外にありません。コロナが終息して元に戻るかどうかも疑問です。」
「コロナによる外出自粛のため、利用客激減の窮状厳しい。スーパー内テナントのため勝手に休めず、従業員の給料分の売上が見込めない。飲食以外にも一日6万円の給付をしてほしい。家賃が払えない。給料も払えない。」
「税収も減り、コロナ対策で多くの税金を使っているの、公共工事が減るのは当然。また、今後税金も上がるだろう。（復興税のように。）コロナも大変だが、経済が一番不安。」
「人材（技術者・従業員）不足により、発注量に対し、受注量が減少している。」
「コロナに関係なく、数年前に1従業員にかけの人員費を見直し、即戦力になる人材を採用したことが、今の業績好調につながりつつある。」
「自動整備は、車検が定期的な物なので売上げベースは減少しないが、不景気になると単価が下がるので利益が悪化する。車販は今年は少し好調だが、今後はこれが続くかどうかは課題。問題はレンタカーでコロナの影響で売上げがかなり悪化しており、厳しい。レンタカーについてはコロナが落ち着くまでは苦戦が強いられる。」
「障害福祉サービスを運営している為、業績の変動はあまり無いが、求人への募集の鈍さと人員不足による残業代の圧迫は、慢性的な課題となっている。」